

# 行政視察報告書

令和6年5月24日

長浜市議会議長 中川勇様

長浜市議会議員 藤井 登

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

## 記

1. 視察等名 議会運営委員会行政視察
2. 視察期間 令和6年5月20日(月)～5月21日(火)
3. 視察場所及び目的
  - ①長野県伊那市 ・ 議会改革について
  - ②長野県駒ヶ根市 ・ 議会改革について
4. 調査内容感想等

### ・視察の目的

長野県伊那市と駒ヶ根市への議会運営委員会の視察の目的は、議会運営の効率化、市民の参加促進、議員の能力向上、先進的な議会改革事例の共有を通じて、自らの議会活動を向上させ、市民に対してより良い行政サービスを提供することにあります。

### ・視察の内容

#### ○伊那市議会の議会改革の取組

令和4年9月に第6回市民と議会との意見交換会が行われ、11月には伊那市中学生キャリアフェス2022が開催されました。12月には伊那西高校生が定例会の一般質問を議会傍聴し、令和5年3月には伊那弥生ヶ丘高校の生徒が探求学習発表と懇談を行いました。この後、1,500人へのアンケートを実施して366人から回答を得た結果を基に、高校生による福祉に関する請願が初めて提出さ

長 浜 市 議 会

れ、採択されました。高校生による請願は議会にとっても想定外であり、探求学習が高校生の政治への意識付けに寄与したと考えられています。

令和 5 年度の取組では、6 月に高遠高校の生徒が定例会の一般質問を議会傍聴し、その後、取組発表と意見交換を行いました。グループ懇談では、生徒 2～3 人と議員 3～4 人が地域の良いところや議会に若者の力を取り入れる方法、その他の要望について意見を交わしました。同じく 6 月に伊那西高校の生徒も定例会の一般質問を議会傍聴し、7 月には意見交換会を実施。こちらも 7 グループに分かれ、生徒 2～3 人と議員 2～3 人が意見交換されています。

さらに 8 月には伊那北高校の生徒が探求学習発表を行い、意見交換会を実施しました。グループ懇談会では 7 グループに分かれ、生徒 4～5 人と議員 3 人が地域の良いところや若者の力を議会に取り入れる方法、その他の要望について議論しました。8 月から 9 月にかけて、第 7 回市民と議員との意見交換会も行われ、ワークショップ形式で 60 人の参加者が集まりました。

#### ○駒ヶ根市の議会改革の取組

次代を担う子どもたちがまちづくりや議会への理解を深め、若い世代の視点で駒ヶ根市の未来について考える機会を提供するため、令和 3 年に「子ども未来議会（中学生議会）」を地元の中学生 69 人とともに開催しました。この取り組みのメインテーマは「こんな駒ヶ根市にしたい！」であり、参加した中学生たちは、まちづくり、イベント、福祉・多様性、環境、農業、観光、教育、文化・スポーツの各分野に分かれて議論し、駒ヶ根市の未来について積極的にアイデアを出し合いました。

この取り組みには多くのメリットがあります。まず、参加した中学生たちは議会の仕組みや議員の役割を深く理解することができました。また、民主主義の基本を実際に体験する良い機会となり、政治や行政に対する関心が高まりました。さらに、若い世代が自らの意見を発表する場を提供することで、自信を持ち、継続的に地域の問題に関心を持ち続ける意欲を養うことができました。参加者からもこの取り組みを継続して実施してほしいという前向きな声が多く寄せられました。

しかしながら、この取り組みにはいくつかのデメリットもあります。特に教員

や市職員には大きな負担がかかりました。質問の確認や答弁書の作成など、多くの準備が必要であり、そのための時間や労力が求められました。今年度は、こうした課題を踏まえ、地元高校とのコラボ企画を中心に展開する予定だそうです。これにより、より多くの生徒に参加してもらい、地域の若者がまちづくりに積極的に関与する機会を広げていくことを目指しているということでした。

・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

長浜市への反映において、生徒に議会へ出向いてもらうだけでなく、「出前授業」を積極的に行うことが重要です。生徒や教員の負担が減ります。

また、生徒たちは地域のニーズや声を届けることで、市政に関心を持ち、積極的に参加する意欲を醸成することができます。市役所の職員も地域の若い声を直接受け止めることで、より市民に近い政策を策定することができます。

「出前授業」を通じて市役所と若者との関係を強化し、市民参加型のまちづくりを推進していきます。地域の課題解決や地域への貢献に向けた取り組みを、若い市民と行政が連携して進めていくことで、より良い地域社会の実現ができると思います。

「子ども未来議会」の長浜市への反映については、若者が議論し提案したアイデアを取り入れることで長浜市に新たな視点や斬新なアイデアをもたらし、若者の政治参加意識の向上につながり、若い世代が市政に関心を持つことで地域社会における若者の役割が強化され、さらに、中学生が議会体験を通じて民主主義や地方自治の基本を学び、社会的責任やコミュニケーション能力が向上するという教育的効果が期待されます。

一方で、議会の運営や資料の準備、意見の収集などで教員や市職員の負担が増加する可能性や、議会開催や準備には時間と労力が必要であり、予算や人的リソースを要することが考えられます。

伊那市、駒ヶ根市の若者を取り込む事例を参考に、次代を担う子どもたちがまちづくりや議会への理解を深める取り組みを行います。地元の小中高校生を対象に参加型の議会体験を提供し、先ほども述べましたが、民主主義の基本を体験させる一方で、教員や市職員の負担を軽減するためのサポート体制を整え、地域

の若者の視点を取り入れた持続可能なまちづくりを促進する方策を実施するヒ  
ントを得た行政視察となりました。

---